

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第1号

1. 気象概要（アメダス：唐津地点）

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8
5	1	17.4	16.7	22.4	22.0	12.8	12.4	20.1	26.0	35.5	43.0
	2	18.1	17.8	23.1	24.1	13.6	12.0	24.4	0.0	35.0	55.4
	3	18.8	19.0	23.7	25.5	14.3	14.0	26.1	0.0	35.1	54.1
	4	19.4	21.8	24.3	29.7	15.0	15.5	22.2	0.5	35.5	54.1
	5	19.9	21.0	24.8	25.0	15.7	18.4	17.8	10.5	34.0	22.5
	6	20.4	22.6	25.0	28.1	16.5	18.3	18.5	24.5	37.1	35.5
6	1	20.9	21.4	25.2	25.3	17.3	18.8	18.2	28.5	27.3	7.4
	2	21.4	21.1	25.4	25.2	18.2	17.4	27.2	13.5	24.5	31.2
	3	21.9	22.0	25.7	27.9	19.0	17.3	40.5	0.0	22.3	40.1
	4	22.4	24.6	26.1	29.2	19.6	21.4	54.5	26.0	20.6	11.4
	5	23.0	21.9	26.6	24.4	20.4	20.4	65.1	217.5	17.8	6.1
	6	23.9	22.0	27.3	26.2	21.3	19.3	73.6	63.5	14.8	25.9

6月4半旬までの平均気温は平年並み～やや高く推移したが5半旬以降は平年より低く推移した。6月の降水量は、4半旬までは平年より少なかったが（平年比 48%）、5半旬以降まとまった降雨（6/22～6/24：280mm）があり、平年より多くなった（平年比 125%）。6月の日照時間は、平年並みとなったものの、4半旬及び5半旬は平年より短かった。

2. 生育状況（調査日：7月2日）

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
コシヒカリ 唐津市厳木 町天川 5/16 移植 標高 550m	本年値	61.0	428	10.1	40.0	・草丈は平年より長い ・茎数は平年よりやや少ない ・出葉は平年並み ・葉色は平年並み
	平年値	51.3	441	10.1	40.1	
	平年比	119	97	±0	-0.1	

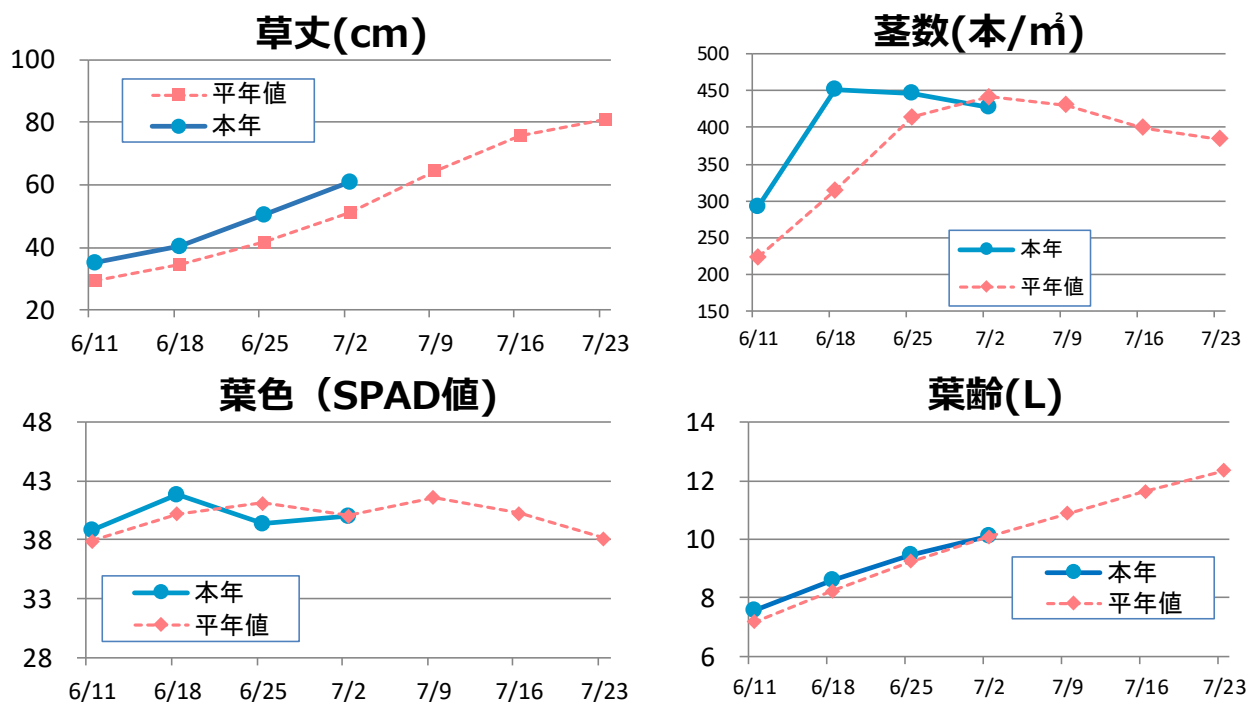
項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 唐津市相知 町伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	35.4	113	6.5	34.4	・草丈は長い ・茎数は少ない ・出葉は平年より早い ・葉色は平年より淡い
	平年値	30.9	146	5.7	35.3	
	平年比	115	77	+0.8	-0.9	
項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主 幹 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 唐津市相知 町相知 6/20 移植 標高 10m	本年値	21.4	84	5.5	-	・草丈は短い ・茎数は少ない ・出葉は平年より遅い
	平年値	25.4	108	6.7	-	
	平年比	84	78	-1.2	-	

(1) 山間早植え

作況ほの「コシヒカリ」は、5月16日に移植された。移植後、気温が高く推移したことから活着は良好で茎数も早期に確保できたものの、6月5半旬以降の日照不足等により草丈は高く徒長気味の生育で推移している。

山間「コシヒカリ」及び「にじのきらめき」において、いもち病の発生を確認している。

◎コシヒカリ作況圖の生育グラフ(厳木町天川)



(2) 普通期水稻

作況圃の「夢しずく」は、移植後に好天に恵まれたことで活着は良好であったが、「さがびより」は移植後に曇雨天が続き生育が停滞しており、両品種ともに茎数は平年より少ない。

一部圃場では、スクミリングガイによる食害や移植後に処理した除草剤による薬害が見られた。補植用の置き苗において、いもち病の発生を確認している。

3. 今後の管理

(1) 山間早植え

①栽培管理

《水管理》

- ・まもなく、幼穂形成期を迎えるため中干しは終了し間断灌水へ移行する。
- ・幼穂形成期から穂揃期はイネが最も水を求める時期であるため、間断灌水での管理とし、出穂期前後1週間は湛水管理とする。土壌表面が白く乾く白乾状態は避ける。
- ・断続的な降雨により十分に中干しができなかった圃場では、間断灌水の落水期間を長めにとるなどして田面を固める。

【間断灌水】

- ・入水後、自然落水させ、右の写真のように足跡に水が残る状態になったら入水する水管理を繰り返す水管理方法である。



間断灌水

《肥培管理》

- ・5月上旬に移植された圃場では、穂肥の施用時期を迎える。
- ・次表の穂肥診断基準に基づき穂肥を適切に施用する。なお、特別栽培「コシヒカリ」でなたねペレットを施用する場合は、窒素肥効の発現に時間を要するため幼穂長が1~2mm確認できた段階で穂肥診断を行い穂肥を施用する。
- ・今年も夏場の高温が予想されており、登熟期の栄養不足を防ぐためにも葉色がさめている圃場では積極的に穂肥を施用する。

《表1 コシヒカリ(一般栽培)の穂肥診断基準》

	葉 色		施用時期		穂肥施用量
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a
生育不足	2.5 以下	28>	25~23 日	1~2mm	2.0
標準	2.5-3.0	31	18~16	1.5~2.5cm	2.0
濃い	3.0-3.5	34	15	2.5cm	1.0
過剰	3.5 以上	35<		施用しない	

※第3葉身長(出穂前 22~18 日ごろの最上展開葉)が 42cm 以上、または第5節間長が 3cm 以上の場合、倒伏が懸念されるので穂肥は施用しない。

《表 2 コシヒカリ(特別栽培)の穂肥診断基準》

	群落葉色	穂肥時期		穂肥施肥量 10a 当たり
		出穂前	幼穂長	
なたねペレット	3.5 以下	25~23 日	1~2mm	20kg
	3.5 より濃い	—	—	施用しない

※施用資材・量等は、特裁の有無・地域により異なるので、地域の暦参照

(2) 普通期水稻

①栽培管理

《水管理》

- ・移植後、活着した圃場では浅水管理により分けつを促進する。
- ・有機物を施用している圃場や湛水状態が続いた圃場等では、ガスの発生が多くなることから、移植後15日及び25日を目安に半日~1日程度落水しガス交換を行う。
- ・有効茎数20~25本/株が確保できた圃場は、順次中干しへ移行する。
- ・中干しは田面に軽く亀裂が入る程度とし、手が入るほどの亀裂ができるような過度な中干しは避ける。



適度な中干し

【中干しの目的】

- ① 無効茎の発生防止や下位節間の伸張防止
- ② 窒素制限による生育量の適正化
- ③ 有害物質の除去及び土壌酸化による根の健全化
- ④ 地耐力を高め倒伏を防ぐ

(3) 病虫害・雑草管理(山間早植・平坦普通期共通)

《雑草関係》

- ・「ホタルイ、オモダカ、ノビエ類」の後発生が多い圃場では、散布時期を逸しないように中後期除草剤を処理する。ただし、特別栽培の圃場では農薬成分カウント数に注意する。



【花茎伸長したホタルイ(草丈 20cm)】



【バサグラン粒剤散布後】

《病害虫関係》

①いもち病

- ・6月4半旬以降の曇雨天により、管内「コシヒカリ」及び「にじのきらめき」、その他、圃場に放置されている補植用の置き苗において、いもち病の発生を確認している。
- ・補植用の置き苗は、いもち病の発生減となるため、速やかに圃場から撤去する。
- ・いもち病の進展型病斑が確認された場合は、農薬成分カウントや収穫前日数に留意しながら、オリブライト250G等で臨機防除を実施する。



いもち病（停止型）



いもち病（進展型）

【BLASTAM 情報】

- ・唐津地域では6月23日に葉いもち感染好適条件が確認されている。
- ・感染好適条件が出現した1週間後から初発生や病斑の増加が予想されるため、圃場を注意深く確認するとともに、発生が確認された場合は適切に防除する。

BLASTAM情報第2号（葉いもち感染好適条件の出現状況）（2026年7月1日更新）

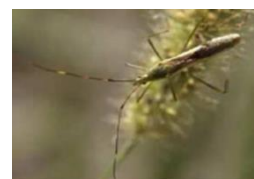
月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	●	●	—	●	●	—	—	—	—	●
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	●	—	—	—	●	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	●	●	—	—	●	●	—	—	●	●
	10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	21日	—	●	—	—	—	—	2	2	—	—
	22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23日	●	4	—	—	●	●	●	●	●	—
	24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	26日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
	27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	?

- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
 2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
 3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
 4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）
 ●：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
 —：好適条件の出現なし
 ?：判定不能

②カメムシ類

(斑点米カメムシ類)

- ・県では、早期水稻を対象に令和8年6月22日に斑点米カメムシに対する注意報を発令した(令和8年6月22日付け佐農技防第281号)。
- ・県農業技術防除センターが県内のイネ科雑草地で行った調査では、斑点米カメムシの発生量が平年よりかなり多く、今後の吸汁被害が懸念される。
- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの増殖・飛来源となるため、耕種的防除として出穂 10 日前までに除草作業を行う。それ以降に除草作業を行うと、畦畔に生息する斑点米カメムシが圃場内に移動し被害が助長される。
- ・斑点米カメムシ類の防除適期は、乳熟期(出穂約 10 日後)、発生が多い場合は穂揃い期と乳熟期の 2 回防除を実施し、被害防止に努める。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ

【佐賀県農業技術防除センターの調査結果(注意報より一部抜粋)】

表1 イネ科雑草における斑点米カメムシ類のすくい取り調査結果(6月後半調査)

	クモヘリ カメムシ	ミミオ カメムシ	ホソハリ カメムシ	アカスジ カスミカメ	シロホシ カメムシ類	イネ カメムシ
本年(R8)	72.5	9.2	4.0	46.4	0.5	0.1
平年比	多	多	多	並	並	並
平年	1.7	0.1	1.2	35.3	0.5	0.0
前年(R7)	0.4	0.1	1.7	14.6	0.1	0

注) 表中の数値は、すくい取り調査(捕虫網 20 回振り)における地点当たりの平均捕獲虫数。
平年値は過去 10 年(H28~R7)の平均値。

(イネカメムシ)

- ・出穂期にイネカメムシに加害されると不稔粒となり減収となる。
- ・近年、県内においても発生が確認されており、被害の拡大が懸念されている。
- ・特に周辺より出穂が早い、または遅い圃場では飛来が集中し被害が大きくなる可能性があるため、圃場をよく観察し、発生が多い場合は、出穂期の防除を行う。

※穂ぞろい期に防除を行う斑点米カメムシとは防除適期が異なるため注意する。



イネカメムシ

令和8年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター

